

地域住民対象の研修会報告

太良町地域包括ケアシステム研究会は、町立太良病院や介護福祉施設、行政機関と連携して住み慣れた地域で安心して最後まで自分らしく生活できる町づくりを目指して、日々活動しています。今年度は、「太良町地域住民の人生の最終段階の意思決定支援方法の構築」の研究に取り組んでいます。住民参加型の研修を計画して、40歳以上の太良町民対象に3回シリーズで実施しましたので報告いたします。

第1回目

令和元年5月11日（土）10：00～11：30 場所；しおさい館

参加者；24名

テーマ；人生の最終段階に向けての準備の研修会

「豊かな人生に『私の心づもり』を添えて」という演題で、町立太良病院長の上通医師が講話を行いました。講演は、人生の最終段階という捉えにくい時期に向けて、どのように生きていきたいか、どこまで治療を希望するか、最期はどこで過ごすのかなど自分で意思決定をして、家族と相談する時間をつくりましょうという主旨でした。

参加者からは、ご自分の介護経験から意思を聞くタイミングを逃したこと、最期は点滴もなくてよいという母親の意向と娘の生きていて欲しいという思いが違って悩んでいること、妻の闘病体験を通して、夫婦で幸せに暮らすことの意味を問い続け実践する日々など意見が発表されました。



第2回目

令和元年5月18日（土）10：00～11：30 場所；しおさい館

参加者；18名

テーマ；人生の最終段階における意思決定の研修会

研修のために準備した事例を動画で見えていただき、4～5人の小グループで討議をしました。

事例は慢性呼吸不全で在宅酸素が必要な85歳の男性でしたが家族や相談員、医療スタッフと話し合う様子を放映しました。グループでの討議は終始明るく活発で、患者の立場、家族の立場での意見、延命治療の是非、病状・病期での意思決定の違い、変化する意思など自分に置き換えてお話ができていました。



第3回目

令和元年5月25日（土）10：00～11：30 場所；しおさい館

参加者；16名

テーマ；人生の最終段階における意思表示の研修会

模擬の退院カンファレンスを開催して、実際に参加者に患者役、患者の長男・長女の嫁役になってもらいました。事例は腰椎圧迫骨折の85歳の女性ですが入院後2カ月経っても日常生活動作全般に援助が必要な状況です。ご自分が当事者であればどのような気持ちになるか、退院先をどうするかと考え、それぞれの立場から発言してもらいました。退院への不安、受け入れる家族の不安や母親への思い、施設利用時の経済的問題等が述べられ、迫真の演技に参加者の意識の高さを感じました。また、広島県地域保健対策協議会で作成された「私の心づもり」という事前指示書にご自分の希望や思い、治療への希望、看取りの場所などを記載してもらいました。



研修のまとめでは、地域包括システムにおいては図のように主役の地域住民の参加が重要であり、その住民の参加は「本人の選択と本人・家族の心構え」であること、この研修をきっかけにして「私の心づもり」を使用して家族と話し合われること、豊かな人生を満足して終えるために何度でも人生の最終段階について繰り返し考え、話し合いましょうとお伝えしました。



図 地域包括ケアシステムにおける「5つの構成要素」

令和元年6月3日
報告者 看護部長 武藤雅子